

令和 7 年 5 月 29 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2024

課題番号：20K11044

研究課題名（和文）1歳6か月児健診カンファレンスシートを活用した地域の健康課題発見モデルの開発

研究課題名（英文）Development of the Community Health Needs Finding Model Utilizing the Conference Form of the 18 Months Old Children Health Checkup Conference

研究代表者

齋藤 美矢子（Saito, Miyako）

山口大学・大学院医学系研究科・講師

研究者番号：30864368

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：保健師が1歳6か月児健康診査後カンファレンスの場面で、カンファレンスシートを活用して当該地域の健康課題を発見できるカンファレンスのモデル化を試みた。カンファレンスシートは、保健師が気になった事象（母子関係、養育態度など）を取り巻く地域の環境に目を向け、課題解決のための地域への具体的な働きかけを検討できるシートである。予備的研究を通じてシートを改良し、保健師が個別課題から地域課題を発見するカンファレンスの運営方法を洗練させた。A県内の1自治体で実証研究を行い、個別課題への対応だけでなく個別課題から地域課題の抽出と解決の検討の展開過程を明らかにした。モデル化には更に検証を積み重ねる必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究におけるカンファレンスモデルの活用により、1歳6か月児健診後カンファレンスに地域の健康課題を発見する機能を付加でき、複雑化多様化する健康課題の明確化と早期予防的介入を可能にできる。また、保健師が日常業務の中で個別課題から地域課題を発見する場面として、乳幼児健診後カンファレンス以外にも難病相談会や地域ケア会議などへの適用や他の専門職が行う事例検討の場面への適用が可能となる。

研究成果の概要（英文）：We attempted to model a conference in which public health nurses can use a conference sheet to discover health issues in the area in question in the setting of a conference after a health checkup for a child aged 1 year and 6 months. The conference sheet is a sheet that enables public health nurses to look at the local environment surrounding the event of concern (e.g., mother-child relationship, attitude toward childcare, etc.) and consider specific approaches to the community to solve the problem. Through preliminary research, we improved the sheet and refined the method of operating a conference in which public health nurses discover community issues from individual issues, and conducted empirical research in one municipality in prefecture A. We were able to confirm the development process of extracting community issues from individual issues and considering solutions, in addition to responding to individual issues. Further verification is needed to create a model.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：カンファレンスシート 地域課題 保健師 カンファレンスモデル 課題発見

## 様式 C - 19 , F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

少子化や核家族化の進展,女性の社会進出の増加,地域社会との希薄化などにより育児不安を抱える母親の増加や児童虐待が社会的問題になるなど母子保健における健康課題は,複雑化・多様化しており,予防的介入と早期発見が喫緊の課題である。母親の育児不安等が増大する時期に実施される1歳6か月児健診(以下,1.6健診)で,ハイリスク児だけでなく,グレーゾーンに入る可能性がある集団特性を把握し,当該地域の健康課題を発見することは予防的介入の観点からその意義は大きい。

乳幼児健診に関する研究では,健康状態や虐待などのハイリスクのスクリーニングツール,子育て支援の必要性の評価方法,保健指導のための個人アセスメントの視点など個別のスクリーニング方法や保健師等が「気になること」の特徴は明らかにされている。その一方で,「個の問題を保健師が地域の問題として捉え直す重要な手段」としての健診の意義が明らかにされているにもかかわらず,集団や地域の健康課題を発見するための具体的な方法は明らかにされていない。

また乳幼児健診後カンファレンスについても,ハイリスクの個別評価とフォロー方法は確立されているが,地域の健康課題の検討は未だ着手されていない。このことは,当該地域の母子保健の健康課題発見のチャンスを逃す可能性があり,ハイリスク児の個別課題だけでなく当該地域の健康課題発見ができる乳幼児健診後カンファレンスのあり方が望まれる。

そこで,1.6健診終了後に行われる健診後カンファレンス(集団健診後に保健師や栄養士,臨床心理士など健診従事者が複数人集まり,その日に受診した親子について多面的に情報共有するためのカンファレンス)の場を活用して,(1)地域の健康課題の検討ができないか(2)健診場面でのアセスメント情報を当該地域の健康課題として集約する方法が確立できないかと考えた。

### 2. 研究の目的

本研究は,保健師がカンファレンスシートを活用して1.6健診後カンファレンスの場面で,当該地域の健康課題を発見するモデルを開発することを目的とした。

モデルとは,保健師が,1.6健診カンファレンスシートを用いて健診場面でのアセスメント情報を集約し,グレーゾーンに入る可能性がある集団や地域特性について多面的な検討を行い地域の健康課題を発見する展開過程をモデル化するものである。またカンファレンスシート(以下,シート)とは,保健師が気になった事象(母子関係,養育態度など)を取り巻く地域の環境に目を向け,課題解決のための地域への具体的な働きかけを検討できるシートをいう。

### 3. 研究の方法

本研究は,以下の研究プロセスによって行った。

#### (1) カンファレンスシートの作成と運営方法の検討

保健師が,1.6健診後カンファレンスで事例検討を行う中で,意識的に個別事例を取り巻く地域の環境へ目を向け,地域課題の抽出と解決の検討を促す様式を作成した。シートは,先行研究を参考に研究者らが項目の構成を検討し,シートの試用の結果から改良を行い作成した。

##### 【研究1】シート項目の選定

研究期間:2020年4月~11月

研究方法:国内外の文献検討や先行研究から得た地域の健康課題発見技術を整理し,1.6健診後カンファレンスにおいて,個別事例の検討から地域の健康課題の抽出や解決の検討ができる項目について,研究者間で検討し選定をした。

##### 【研究2】シートの試行

研究期間:2020年12月~2021年12月

研究対象者:A県内のB自治体(市)の保健師9名

研究方法:1.6健診後カンファレンスでシートと進行ガイドを用いてカンファレンスを13回実施した。シート記録や参加観察記録,担当者や全体での振り返り記録から,保健師が個別課題から地域課題を発見し解決の検討を促す上での阻害・促進要因の特定を行った。その結果からシートの改良と運営方法の見直しをした。

##### 【研究3】インタビュー調査(参加保健師の認識の変化)

研究期間:2022年3月

研究対象者:研究2に参加したB自治体保健師8名(保健師経験年数1~10年未満3名,10~20年未満2名,20年以上3名)

研究方法:半構造化グループ・インタビュー調査(90分×2グループ)を行い,逐語録からシートを活用したカンファレンスを実施した結果,保健師がどのように思考し,どのような変化を認識したかについて分析を行った。

#### (2) 1.6健診後カンファレンスにおける地域の健康課題発見の実証研究

【研究4】改良したシート及び運営方法を用いた介入研究

研究期間：2024年2月～9月

研究対象者：A県内C自治体（町）の保健師5名

研究方法：事前研修（90分）、シートを用いたカンファレンス、振り返り（上司同席）の3つのステップで介入を行った。シート記録と参加観察記録、振り返り記録から地域の健康課題を発見するプロセスを明らかにし、シートを活用した効果と運営方法の妥当性を検証した。

【研究5】質問紙調査（介入前後の参加保健師の思考の変化）

研究期間：2024年2月、9月

研究対象者：研究4に参加した保健師5名（保健師経験年数1～10年未満2名、10～20年未満1名、20年以上2名）

研究方法：研究4の介入前後に質問紙調査を実施し、得点比較と自由記載の質的記述的分析により、保健師の思考の変化を検証した。

4. 研究成果

(1) 地域の健康課題の抽出と解決の検討ができるシートの開発と効果的な運営方法

シート項目は、市町村保健師活動における地域の健康課題発見の実践技術(斎藤ら 2020)の要素を組み込み作成した。この実践技術は、先行研究において、A県内19市町の常勤保健師320名(回答率80.4%)への質問紙調査結果から得られた保健師が行う地域の健康課題を抽出するための視点や意識を明らかにした実践技術項目である。4つの要素と30の下位項目で構成されている。要素1<住民の生活背景に焦点を合わせる>、要素2<データや生活状況を束ねる>、要素3<地域の健康課題を解決することに責任を持つ>、要素4<住民や関係者との信頼関係を構築する>である。研究者間で協議し、保健師の思考の流れを意識して地域課題が検討できるようシートに4要素を組み込んだ。シート項目は、「個別ケースで気になったこと」「個を取り巻く地域全体でのフォロー〔どう支えたらいい、誰がどう調整するか〕」「フィードバック」とする試案を作成した。

シート案の試行(研究2)と参加保健師の認識の変化(研究3)の調査結果、参加保健師は個別課題から地域課題の抽出と解決の検討の必要性は理解できていたが、個別課題から地域課題へ展開する実践的な思考につながりにくかった。阻害因子として、「外発的な取り組みとしての認識」「個別課題と地域課題を同時に見つける複雑性」「成果につながる具体的な認識がない」「組織のインセンティブがない」「個人の振り返りがない」ことが挙げられた。

これらの結果からシート項目について「個別ケースで気になったこと」「地区担当者が行う事後フォローアップ・個を取り巻く地域全体でのフォローアップ(保健師が取り組むべき課題)」「具体的な地域環境への働きかけ」「フィードバック」の4項目と「全体」の欄で構成するシートに改良した(下線部を追加・修正)。運営方法では、事前研修での目標の共有、個人の振り返りのプロセスの導入、組織のインセンティブを受けられるよう振り返り場面への上司の出席を新たに追加した。(表1)

運営方法として、事前研修 シートを用いたカンファレンス 振り返りの3つのステップを取り入れた。

研究4の結果からは、改良したシートを用いて個別事例の検討だけでなく、地域の環境に目を向けて地域課題の抽出と解決の検討を行えることが確認された。

また、研究5の事後の質問紙調査の自由記載内容から、保健師の意識変化が記載されたものを抽出し、シートの有効性や効率性の観点から分類した。【個別課題の共有性に気づく】【個別課題から地域課題を思考するプロセスが理解できる】【地域の環境に目が向く】【情報の可視化と伝達の効率化】などシートの有用性が確認された。

番号	出生順位	健診日	個別ケースで気になったこと (ボキャキュレーションアプローチにつながる 発言内容や社会資源に関する発言内 容も含む)	地区担当者が行う事後フォローアップ 個を取り巻く地域全体でのフォローアップ (保健師が取り組むべき課題)	具体的な地域の環境への働きかけ	フィードバック
全体						

(2) 個別課題から地域課題を発見するカンファレンスの展開方法

研究2では、13回のカンファレンスで110事例の検討がされ、シートや参加観察記録から4事例の地域課題の抽出と解決の検討がされた。1回の平均カンファレンス時間は、81.6分であった。平均カンファレンス時間は、1～5回目は94.8分で9～13回は67.8分と27分短縮していた。

研究4では、個別課題から地域課題を思考する意義やカンファレンス方法について説明する事前研修を行った後、改良したシートを用いて6回のカンファレンスを実施した。28

事例の検討がされ、8件の地域課題の抽出と解決の検討がされた。1回の平均カンファレンス時間は55分であった。1回目と6回目の時間の差はみられなかった。3回目、6回目のカンファレンス終了後、参加保健師と研究者と上司が同席する振り返りを行った。

研究2及び研究4で抽出された主な地域課題は表2のとおりである。

表2 カンファレンスで抽出された地域課題

番号	研究番号	取り上げた事例	抽出された地域課題
1	研究2	虫歯の多さが目立ちDVとネグレクトが疑われる事例	虐待事例に早期介入する仕組みが必要(歯科の精密検査を利用した介入の機会を作る)
2	研究2	制度のほさまで対応できていない療育が必要な管轄外事例	市外に住民票がある子供の療育の受け入れ体制が整っていない
3	研究2	野菜を食べたがらない栄養相談事例	幼児食の相談に多い内容について食育の普及を図る
4	研究2	子どもの遊び場がわからない転入者の事例	転入者への遊び場の情報提供不足に対する対策の必要がある
5	研究4	言葉の遅れや低身長などでフォローが保育園へ保健センターから情報提供するばかりになっている事例	児の発達フォローが途切れないように、母親からも園へ伝えられる関わり方が必要である
6	研究4	療育や定期的な受診が必要な疾患を持つ事例	母親に偏重している負担の軽減を図る環境整備が必要
7	研究4	言葉や発達の遅れで2歳時点のフォロー事例	2歳時点のフォロー者が多いため、2歳児に集団で確認できる2歳児歯科検診の復活について検討
8	研究4	乱視で要精密の児の母親、予定外の妊娠が短い間隔で続いている母親、発音不明瞭で兄弟も言語療法を受けている母親などで不安を訴えない事例	全体的に母親の不安感の表出が薄い共通点があるためSOSをキャッチできる工夫が必要である
9	研究4	保健師のフォローのみになっている事例	エコマップで関係機関の関わりを確認すること、他の機関との関わりを母親からも聞き、母親を育てる支援の必要がある
10	研究4	医療観察が必要な事例	健診後の医療受診についての働きかけが不十分(保護者への情報提供の在り方)
11	研究4	健診後のフォローを母子健康手帳へ記入していない事例	要観察児への説明や管理方法が不十分なため保護者と保健師の双方向の認識共有ができていない
12	研究4	発育や発達で経過観察が必要な事例	健診結果について園医との情報共有ができていないため健診後フォローが適切にできていない

これらの地域課題の検討は、ほとんどが経験年数20年以上の保健師からの発言がきっかけであった。研究4で発言者の意図を、振り返り記録で照合をした結果、個別事例を取り巻く環境として関係機関との関わりや生活背景に注目していた。個別課題を保健師だけで解決するのではなく、地域全体で解決に取り組むべき課題ではないかと思われ、地域課題の発見につながっていた。カンファレンス場面だけでなく、カンファレンス後の振り返り場面を通して、全保健師が発言者の意図を共有することは、個別課題から地域課題への思考の展開方法を具体的に確認できる点で有効であったと考える。

介入後の参加保健師の意識の変化(研究5)では、健診後カンファレンスで地域課題へ気づくことができる理由として、「シートで俯瞰してみることで共通している事例に気づきやすかった。」「いくつかのケースから共通点があり、そこから課題に気づくことができた。」「他のケースにも同じような課題があることに気づけ、それが地域の問題であるという視点で考えられた。」が挙げられた。シートの活用は、個別課題の共通性への気づきを促し地域課題を思考するのに有効であったと考えられた。

保健師が個別課題から地域課題を発見する1.6 健診後カンファレンスは、事前研修・シートを用いたカンファレンス・振り返りの3つのステップによる取り組みにより、一定の効果が認められた。シート項目に沿って、各事例の共有、全体欄での共通する課題の確認、事後フォローにおいて必要な地域全体でのフォローアップの検討、地域全体で解決に取り組むべき課題は何かと思われ、具体的な地域の環境への働きかけを検討、個別課題だけでなく、地域課題を発見していく展開過程であった。

### (3) 個別課題から地域課題の抽出と解決の検討をすることが定着できたか(研究5)

介入前後の保健師の意識を比較したところ、健診後カンファレンスに意義と機能について、介入前には意識されていなかった「地域の問題への気づき」や地域の健康課題の明確化の検討」が介入後は全員2~3点上昇していた。一方で、「地域の健康課題の解決の検討」については前後の得点差が0~3点と差があった。その理由としては、地域の健康課題の明確化に時間を要するため、解決の検討は定期会議などの場が合うという認識であった。

保健師に個別課題から地域課題の抽出と解決の検討をすることが定着できたかについて、以下の7つの観点で評価を行った。「有効性」では、地域課題が8例抽出されたこと、保健師の意識として健診後カンファレンスの意義や機能に地域課題の明確化が追加されたことから有効であったと考える。「受容性」では、概ね受け入れられていた。「採用」では、個別事例の課題から地域課題を明確化する方法として活用できそうという認識であった。「適切性」では、地域課題の明確化については概ね場にあったという認識であったが、一部、理想的であるという意見もあった。職場の理念や価値観には合うと認識されていた。「実施可能性」では、全員、今後も継続したいという意向であった。「忠実性」では、事前研修の説明どおりに実施されていた。

### (4) まとめ

地域の健康課題発見の実践技術の要素を組み込んだカンファレンスシートを活用して1.6 健診後カンファレンスを実施した結果、個別事例の課題から地域の環境への働きかけを意識した検討が行われ、当該地域の健康課題を発見する展開過程が確認できた。しかしながら、人口規模が小さく事例検討数も少ない1自治体での検証であるため、モデルとして示すには、さらに検証を積み重ねる必要がある。事例検討を行う違う場面や他の専門職においても適用できる可能性がある。

#### <引用文献>

- Damschoroder (2009) / 内富康介監修, 梶有貴, 島津太一監訳 (2021), ひと目でわかる実装科学 がん対策実践家のためのガイド、保健医療福祉における普及と実装科学研究会, 東京, 36-37.
- 厚生労働省 (2019): 「健やか親子21(第2次)」の中間評価等に関する検討会「健やか親子21(第2次)」の中間評価等に関する検討会報告書, 11-12.  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000614300.pdf> (検索日: 2023年12月16日)
- 厚生労働省 (2017): 児童虐待に係る児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントツールについて, <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000161641.pdf> (検索日: 2019年11月18日)
- 国立成育医療研究センター (2018): 乳幼児健康診査事業実践ガイド, <https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000520614.pdf> (検索日: 2020年2月19日)
- 小枝達也 (2018): 乳幼児健康診査のための「保健指導マニュアル(仮称)」「及び「身体診察マニュアル(仮称)」作成に関する調査研究報告書, 国立成育医療研究センター, 112-117.
- 松原美智子, 岡本玲子, 和泉比佐子 (2017): 1歳6ヶ月児健康診査で用いる親子関係アセスメントツールの開発 支援を要する親子の対応に着目して-, 社会医学研究, 34(1), 11-20.
- 守田孝恵編著 (2019): P D C Aの展開図でわかる「個」から「地域」へ広げる保健師活動 改訂版, クオリティケア, 東京, 29-31.
- 村松照美, 須田由紀 (2020): 市町村保健師が捉える地域診断実施の困難点と工夫点, 山梨県立大学看護学部・看護学研究科研究ジャーナル, 6(1), 42-50.
- 中野照代, 荒木田美香子, 佐藤友子他 (2003): 幼児健康診査における育児機能評価のためのアセスメントツールの開発 その1 1歳6ヶ月児・3歳児健診における問診票項目の全国実態調査, 日本地域看護学会誌, 5(2), 95-100.
- 尾崎米厚 (2003): 健診の現代的意義の多様性, 保健婦雑誌, 59(4), 300-303.
- 斎藤美矢子, 守田孝恵 (2020): 市町村保健師活動における地域の健康課題発見の実践技術, 山口医学, 69(1), 25-38.
- 高橋美美, 高尾俊弘 (2007): 保健師の地域診断実践に影響する要因に関する研究, 高知大学学術研究報告(医学・看護学編), 56, 21-29.
- 武田江理子, 小林康江 (2017): 1歳6ヶ月児健康診査における「愛着 養育バランス」尺度短縮版のアセスメントツールとしての有用性, 母性衛生, 58(2), 314-321.
- 都築千景, 村嶋幸代 (2009): 1歳6ヶ月児健康診査の実施内容と保健師の関わり, 日本公衆衛生学会誌, 56(2), 111-120.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤美矢子, 守田孝恵, 村上祐里香
2. 発表標題 地域の健康課題解決に向けた乳幼児健診後カンファレンスの運営方法の検討ー導入前の保健師の認識
3. 学会等名 第44回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 齋藤美矢子, 守田孝恵, 山田小織, 吹田晋, 緒方彩乃, 村上祐里香
2. 発表標題 個別課題から地域課題を思考する地域課題発見型カンファレンスを通して
3. 学会等名 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ
4. 発表年 2025年

1. 発表者名 齋藤美矢子, 牛尾裕子
2. 発表標題 1歳6か月児健康診査における地域課題発見型事後カンファレンス実装の阻害・促進要因
3. 学会等名 第25回日本地域看護学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤美矢子, 牛尾裕子, 磯村聡子, 村上祐里香
2. 発表標題 地域の健康課題発見・事業化検討に向けた1歳6か月児健診後カンファレンス
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究成果物として「地域課題発見型カンファレンス」の紹介動画を作成した。所属大学のHPで公表した。  
[http://publichealthnursing.med.yamaguchi-u.ac.jp/research\\_project.html#saito](http://publichealthnursing.med.yamaguchi-u.ac.jp/research_project.html#saito)

#### 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	守田 孝恵  (Morita Takae)  (00321860)	獨協医科大学・看護学部・特任教授    (32203)	
研究分担者	木嶋 彩乃  (Ogata Kijima Ayano)  (70759670)	山口大学・看護学部・講師    (15501)	
研究分担者	村上 祐里香  (Murakami Yurika)  (60898865)	山口大学・大学院医学系研究科・助教    (15501)	
研究分担者	磯村 聡子  (Isomura Satoko)  (80437623)	山口大学・大学院医学系研究科・准教授    (15501)	削除:2022年3月31日

#### 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------